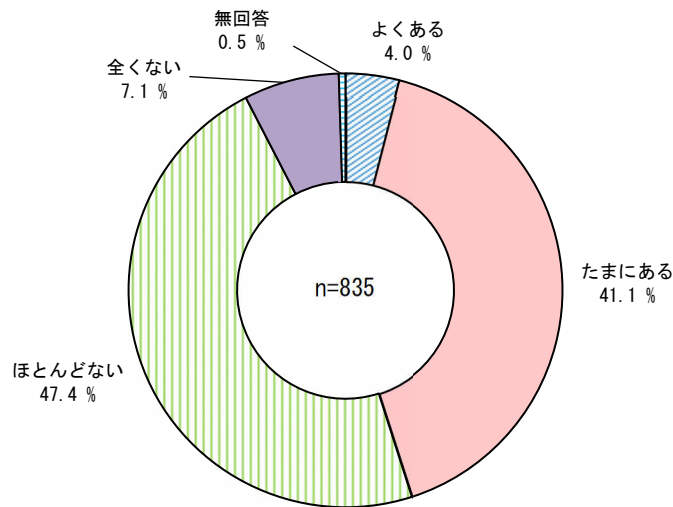


犯罪のない安全で安心な地域づくりについて

問1 あなたは、犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じることがありますか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「ほとんどない」(47.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「たまたにある」(41.1%)、「全くない」(7.1%)の順となっている。

【圏域別】

「ほとんどない」については、オホーツク連携地域(64.7%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(53.5%)となっている。「たまたにある」については、釧路・根室連携地域(47.8%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(43.3%)となっている。

【人口規模別】

「ほとんどない」については、人口10万人以上の市(55.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(53.7%)となっている。「たまたにある」については、札幌市(47.2%)が最も割合が高く、次いで町村部(45.0%)となっている。

【性別】

「ほとんどない」については、男性51.1%、女性45.0%となっており、「たまたにある」については、男性37.5%、女性43.9%となっている。

【年代別】

「ほとんどない」については、60～69歳(53.8%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(47.8%)となっている。「たまたにある」については、30～39歳(46.5%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(43.1%)となっている。

【職種別】

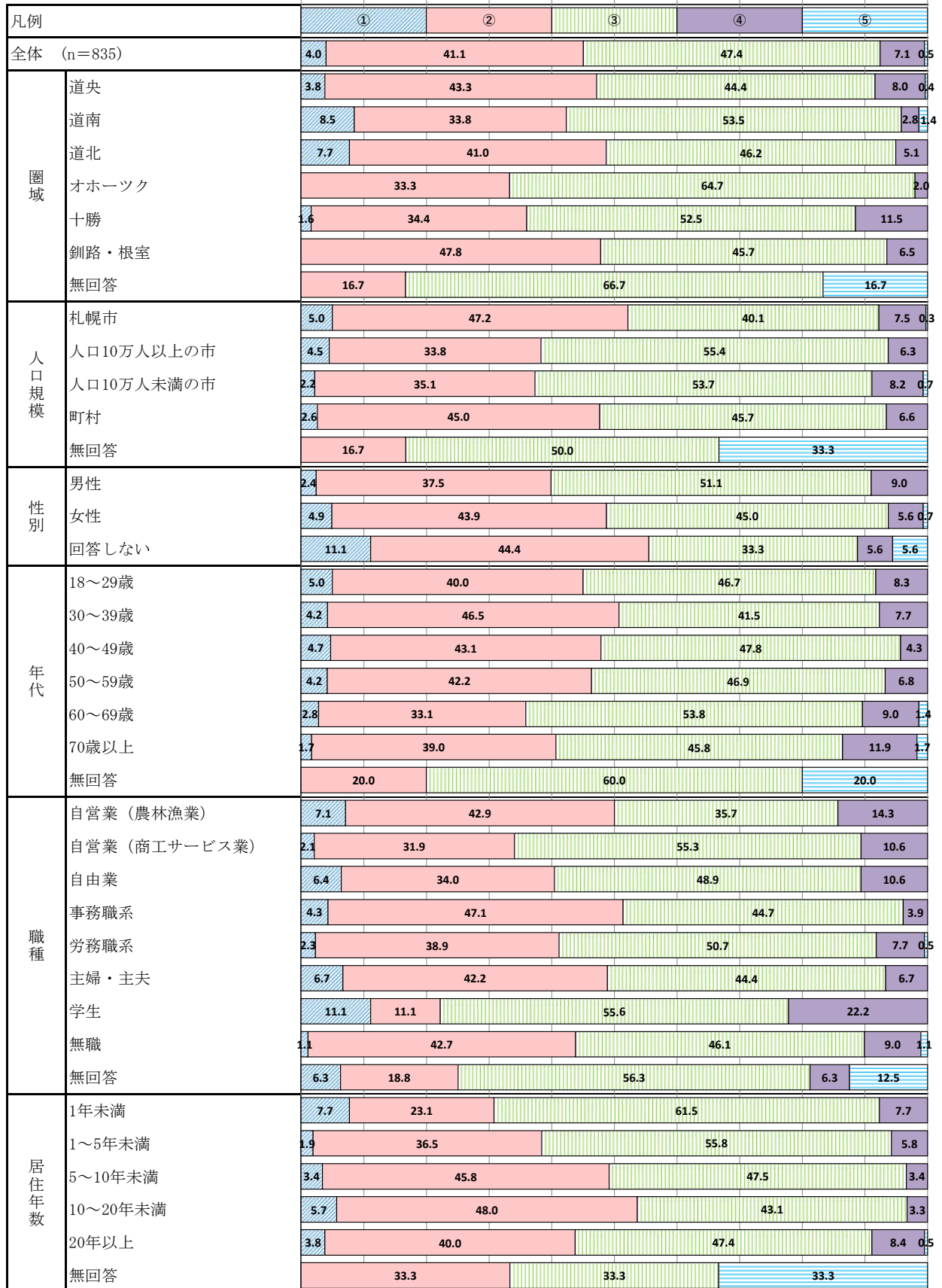
「ほとんどない」については、自営業(商工サービス業)(55.3%)が最も割合が高く、次いで労務職系(50.7%)となっている。「たまたにある」については、事務職系(47.1%)が最も割合が高く、次いで無職(42.7%)となっている。

【居住年数別】

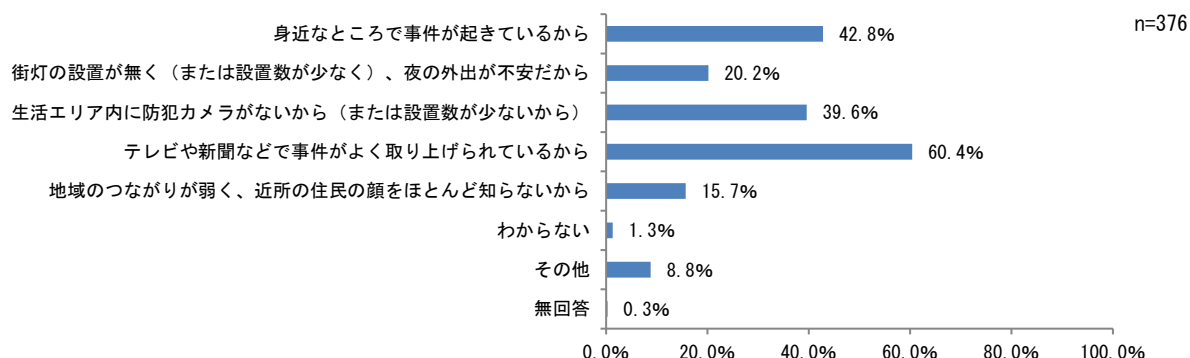
「ほとんどない」については、1年未満(61.5%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(55.8%)となっている。「たまたにある」については、10～20年未満(48.0%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(45.8%)となっている。

①よくある ②たまにある ③ほとんどない ④全くない ⑤無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問2 ※問1で選択肢「1 よくある」または「2 たまにある」を選んだ方のみお答えください。
あなたが不安を感じる要因について、次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」(60.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「身近なところで事件が起きているから」(42.8%)、「生活エリア内に防犯カメラがないから(または設置数が少ないから)」(39.6%)の順となっている。

【圏域別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、オホーツク連携地域(76.5%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(66.7%)となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、道央広域連携地域(48.4%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(40.9%)となっている。

【人口規模別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、町村部(63.9%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(62.4%)となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、札幌市(53.6%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(36.5%)となっている。

【性別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、男性59.9%、女性60.7%となっており、「身近なところで事件が起きているから」については、男性42.9%、女性42.0%となっている。

【年代別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、50～59歳(71.9%)が最も割合が高く、次いで60～69歳以上(65.4%)となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、18～29歳(51.9%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(50.0%)となっている。

【職種別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、自営業(商工サービス業)(75.0%)が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(62.1%)となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、自由業(63.2%)が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(47.0%)となっている。

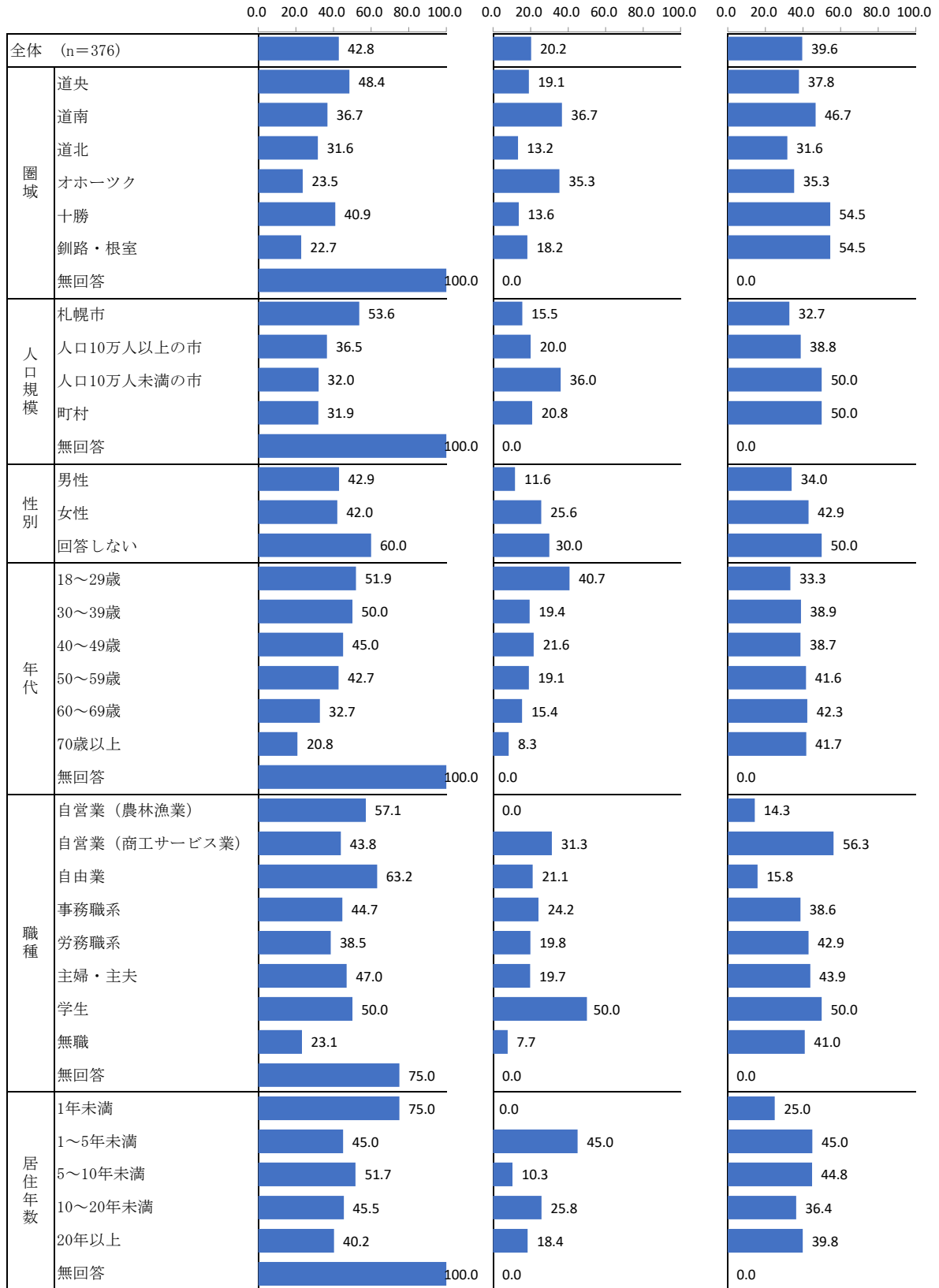
【居住年数別】

「テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから」については、10～20年未満(63.6%)が最も割合が高く、次いで20年以上(62.1%)となっている。「身近なところで事件が起きているから」については、1年未満(75.0%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(51.7%)となっている。

身近なところで事件が起きて
いるから

街灯の設置が無く（または設置
数が少なく）、夜の外出が不安
だから

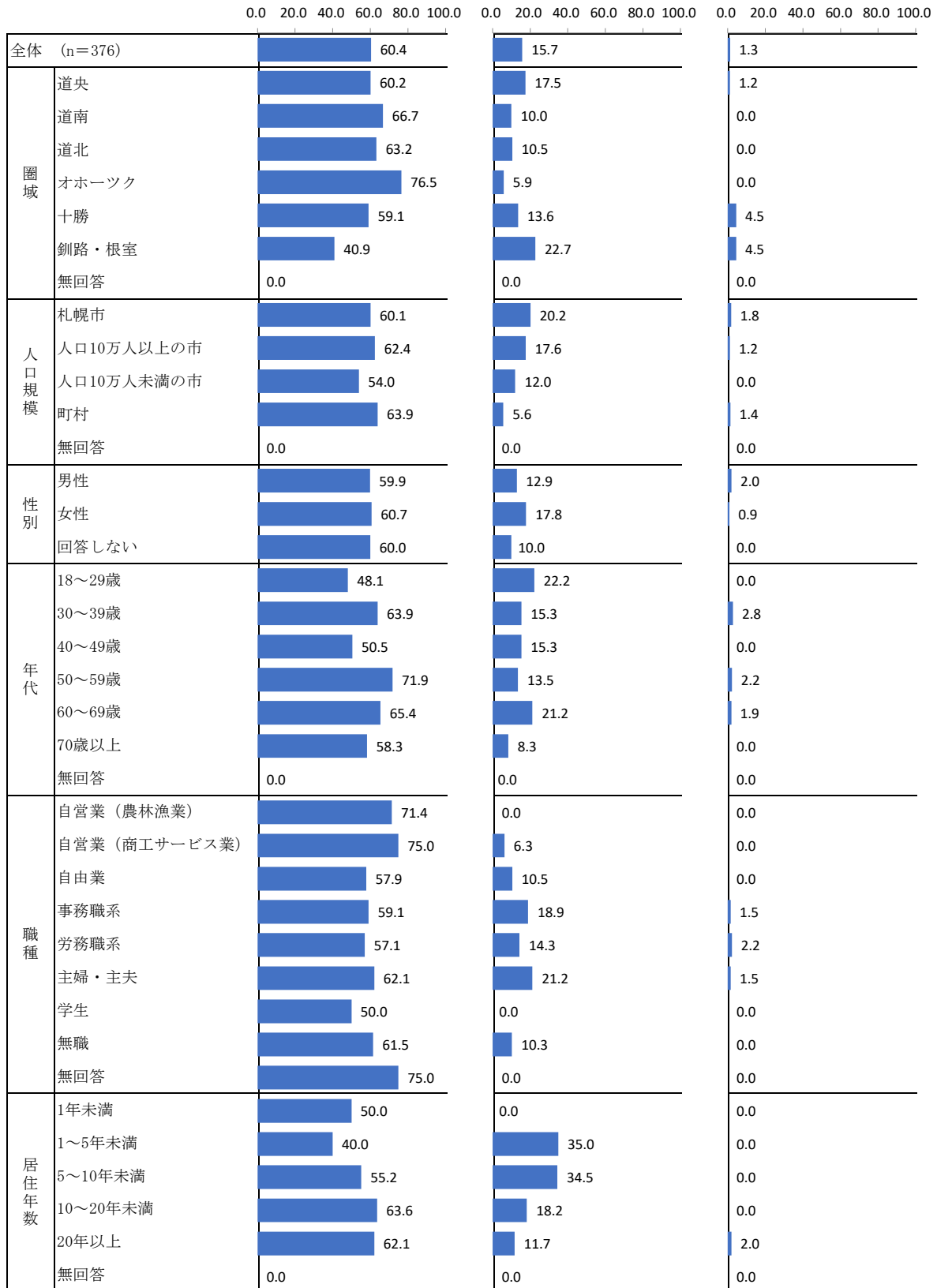
生活エリア内に防犯カメラが
ないから（または設置数が少
ないから）

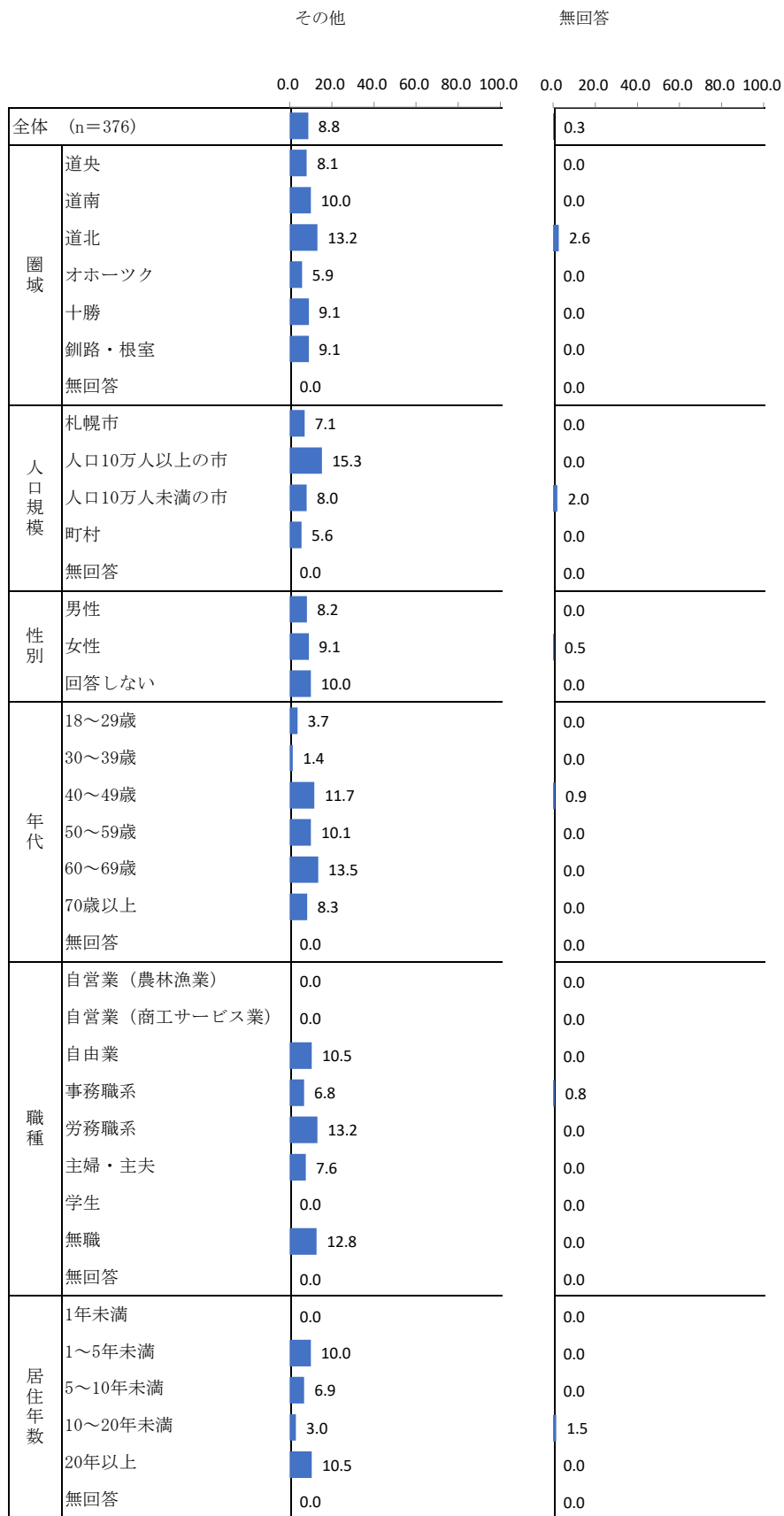


テレビや新聞などで事件がよく
取り上げられているから

地域のつながりが弱く、近所の
住民の顔をほとんど知らないか
ら

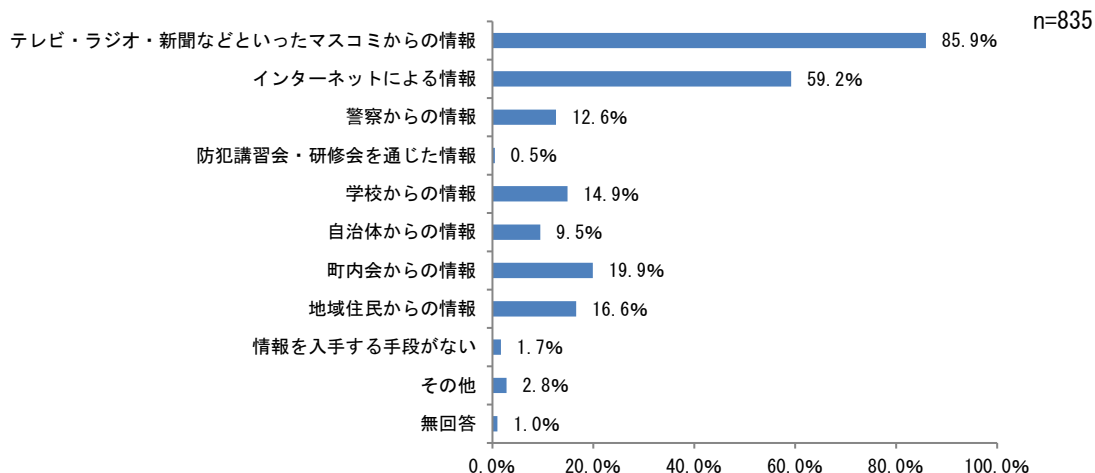
わからない





問3 あなたは、地域で起きている犯罪をどのような手段で知りますか。

次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報」（85.9%）と答えた方の割合が最も高く、次いで「インターネットによる情報」（59.2%）、「町内会からの情報」（19.9%）の順となっている。

【圏域別】

「テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報」については、十勝連携地域（91.8%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域（89.1%）となっている。「インターネットによる情報」については、道央広域連携地域（63.8%）が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域（62.7%）となっている。

【人口規模別】

「テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報」については、札幌市（87.9%）が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市（86.6%）となっている。「インターネットによる情報」については、札幌市（68.3%）が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市（56.8%）となっている。

【性別】

「テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報」については、男性85.1%、女性86.9%となっており、「インターネットによる情報」については、男性60.3%、女性58.1%となっている。

【年代別】

「テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報」については、60～69歳（92.4%）が最も割合が高く、次いで70歳以上（86.4%）となっている。「インターネットによる情報」については、30～39歳（78.2%）が最も割合が高く、次いで18～29歳（76.7%）となっている。

【職種別】

「テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報」については、事務職系（90.7%）が最も割合が高く、次いで自由業（87.2%）となっている。「インターネットによる情報」については、事務職系（70.4%）が最も割合が高く、次いで自由業（68.1%）となっている。

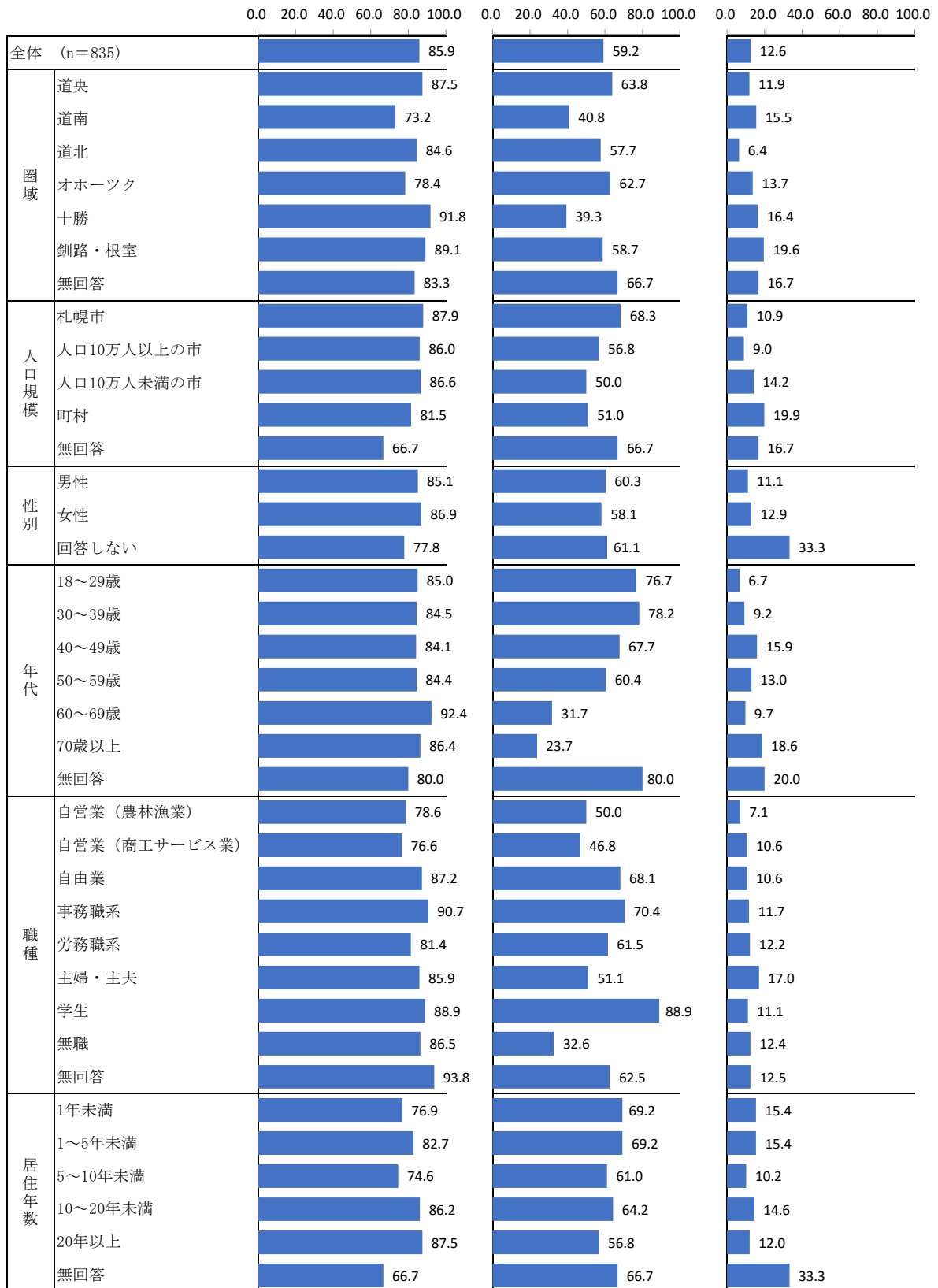
【居住年数別】

「テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報」については、20年以上（87.5%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（86.2%）となっている。「インターネットによる情報」については、1年未満と1～5年未満（69.2%）が同率で最も割合が高く、次いで10～20年未満（64.2%）となっている。

テレビ・ラジオ・新聞など
いったマスコミからの情報

インターネットによる情報

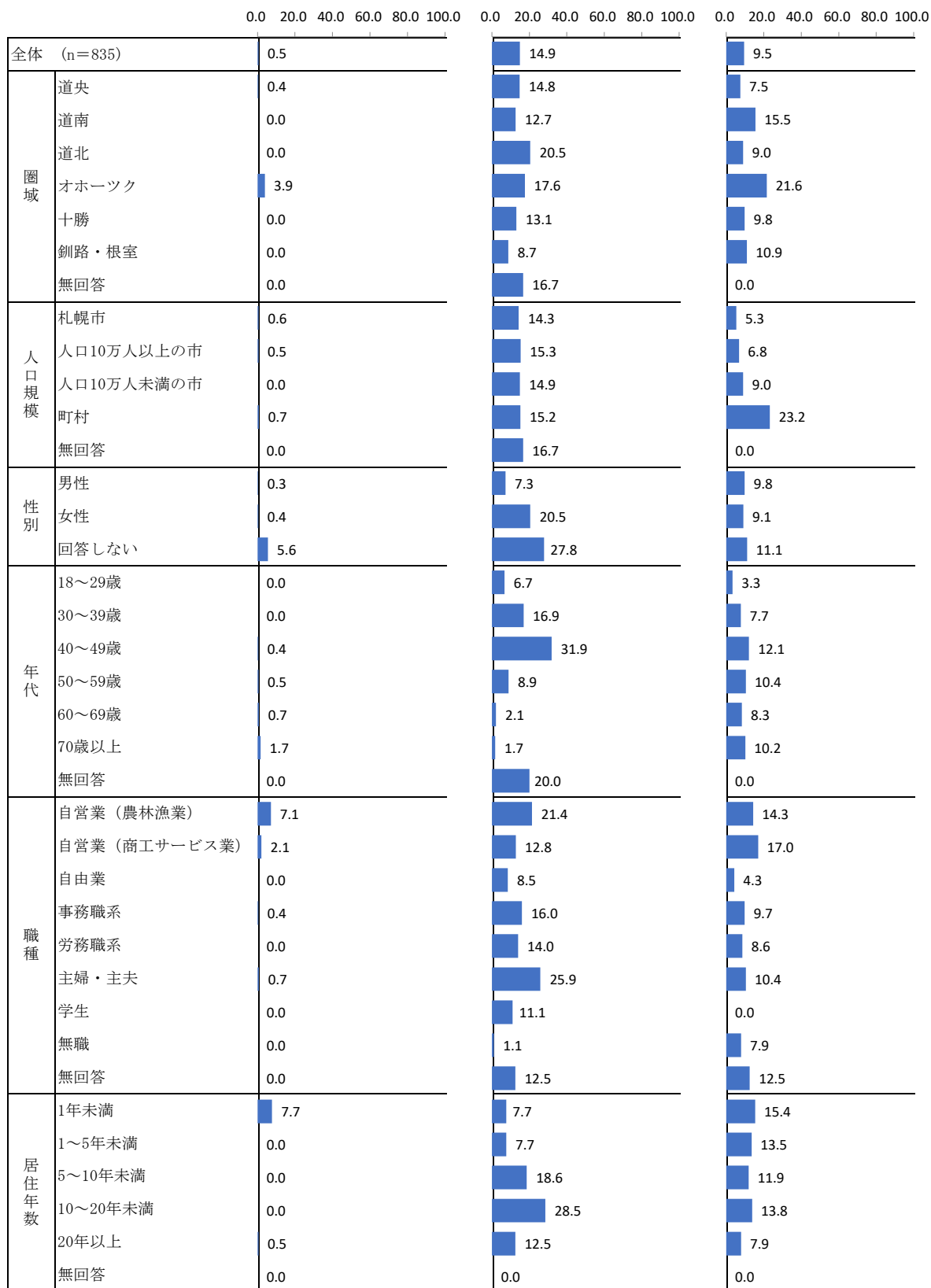
警察からの情報



防犯講習会・研修会を通じた情報

学校からの情報

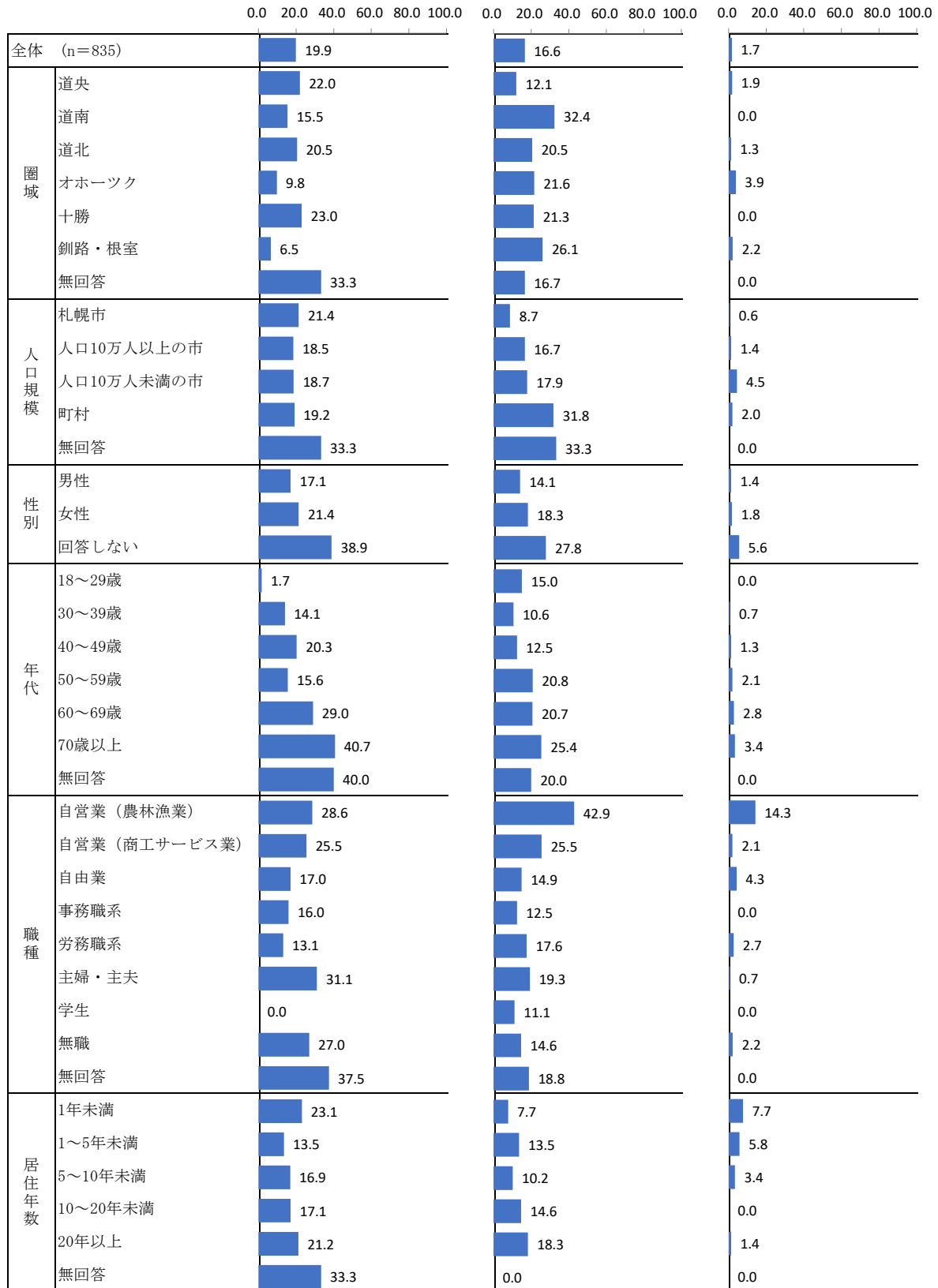
自治体からの情報



町内会からの情報

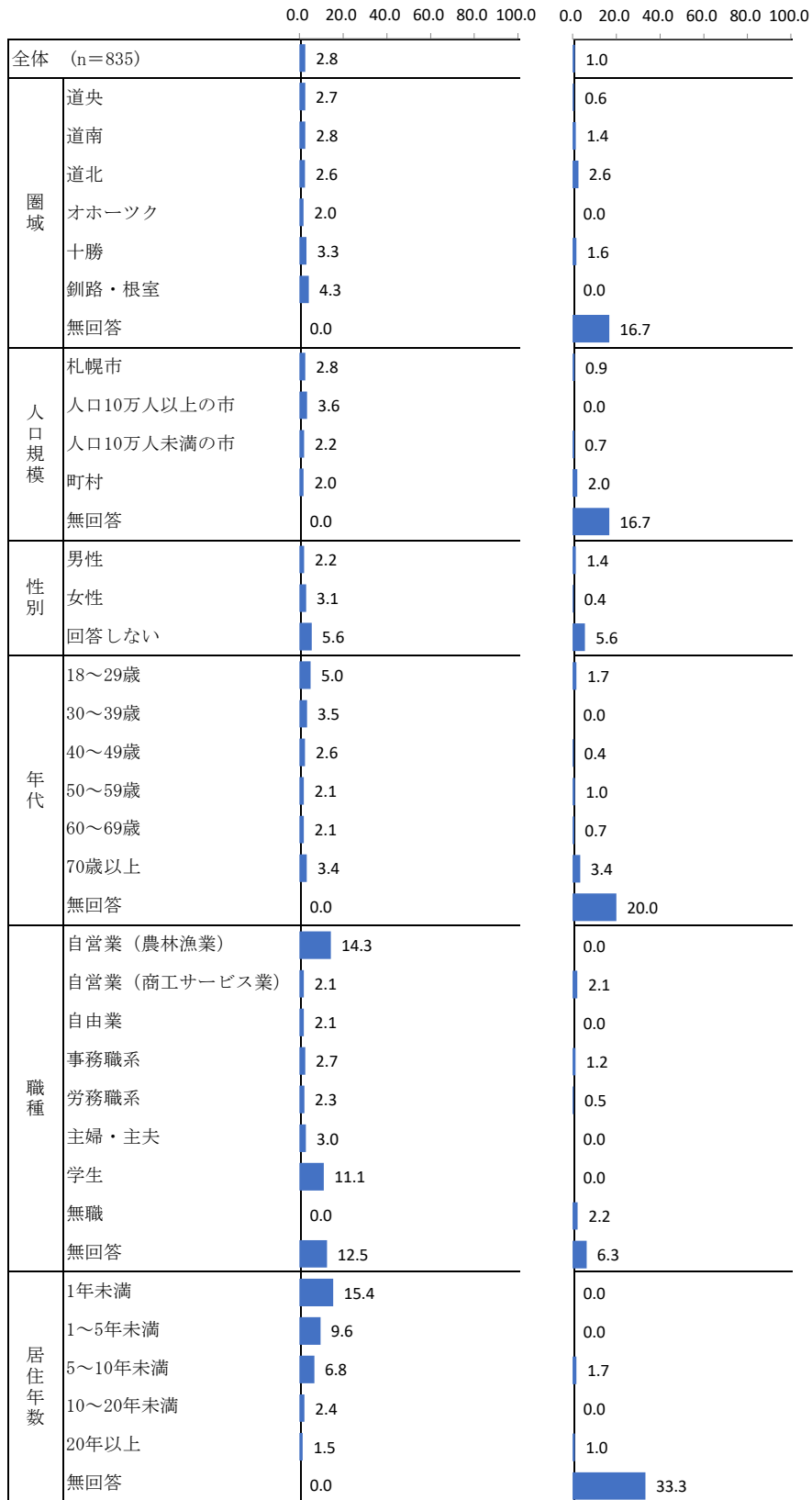
地域住民からの情報

情報を入力する手段がない

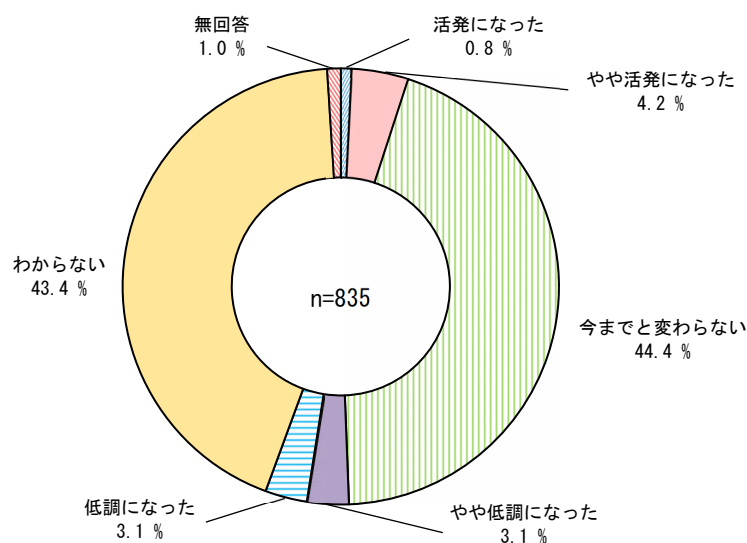


その他

無回答



問4 あなたの居住地で行われているここ数年の防犯活動の状況について、どのように感じていますか。次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「今までと変わらない」(44.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「わからない」(43.4%)、「やや活発になった」(4.2%)の順となっている。

【圏域別】

「今までと変わらない」については、オホーツク連携地域(56.9%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(52.1%)となっている。「わからない」については、釧路・根室連携地域(52.2%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(45.8%)となっている。

【人口規模別】

「今までと変わらない」については、町村部(55.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(44.6%)となっている。「わからない」については、人口10万人未満の市(48.5%)が最も割合が高く、次いで札幌市(46.9%)となっている。

【性別】

「今までと変わらない」については、男性48.1%、女性41.6%となっており、「わからない」については、男性41.3%、女性45.0%となっている。

【年代別】

「今までと変わらない」については、70歳以上(55.9%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(49.6%)となっている。「わからない」については、30～39歳(55.6%)が最も割合が高く、次いで18～29歳(50.0%)となっている。

【職種別】

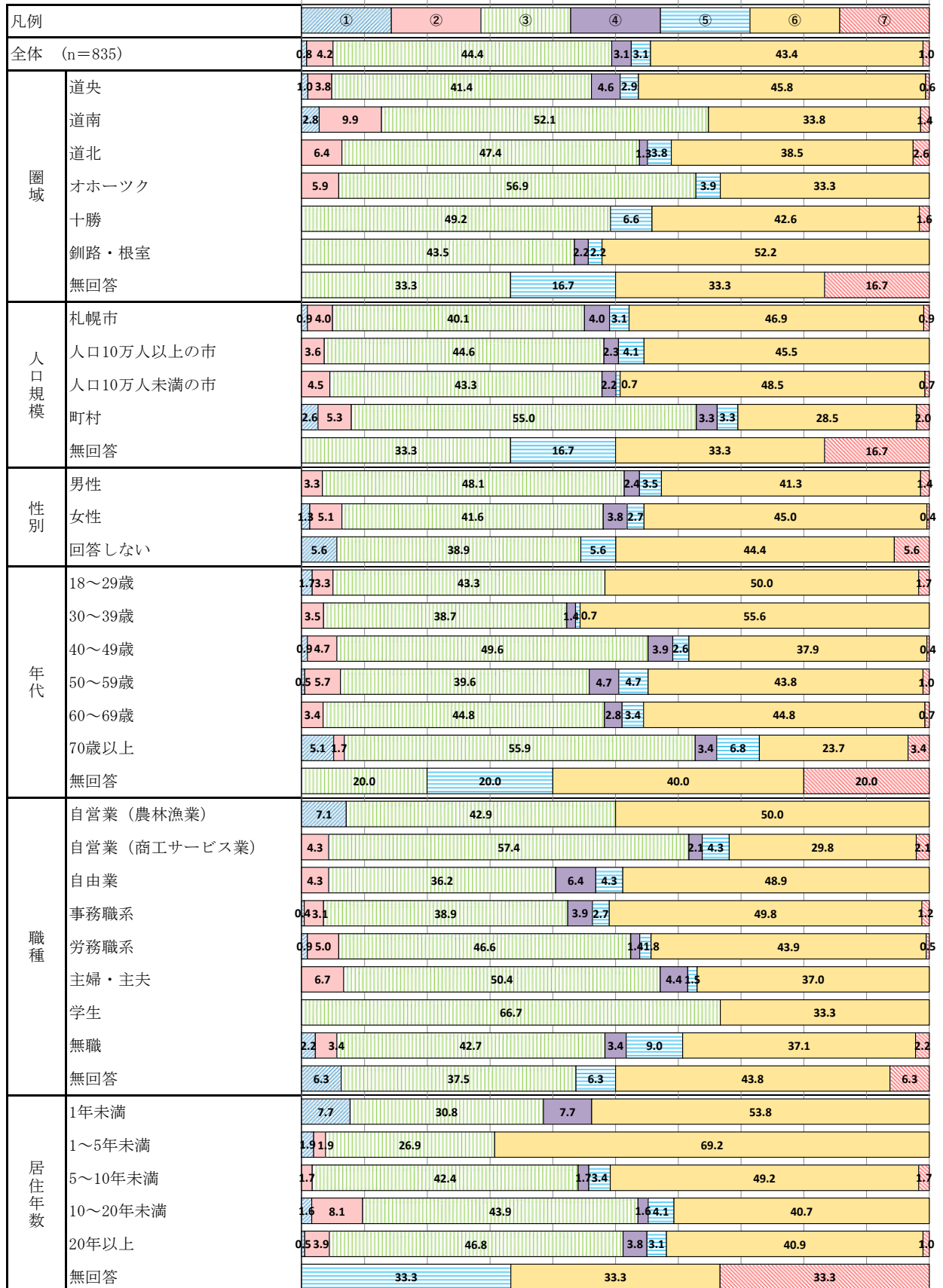
「今までと変わらない」については、自営業(商工サービス業(57.4%))が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(50.4%)となっている。「わからない」については、事務職系(49.8%)が最も割合が高く、次いで自由業(48.9%)となっている。

【居住年数別】

「今までと変わらない」については、20年以上(46.8%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(43.9%)となっている。「わからない」については、1～5年未満(69.2%)が最も割合が高く、次いで1年未満(53.8%)となっている。

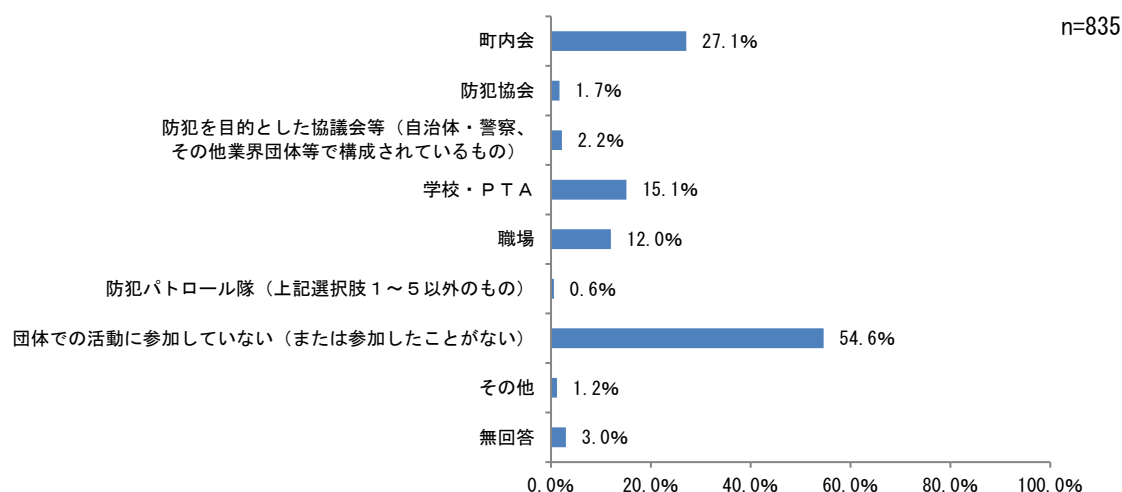
①活発になった ②やや活発になった ③今までと変わらない
 ④やや低調になった ⑤低調になった ⑥わからない ⑦無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問5 あなたは、地域を犯罪被害から守るために、どのような団体での活動に参加（過去に参加していたでも可）していますか。

次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「団体での活動に参加していない（または参加したことがない）」（54.6%）と答えた方の割合が最も高く、次いで「町内会」（27.1%）、「学校・PTA」（15.1%）の順となっている。

【圏域別】

「団体での活動に参加していない（または参加したことがない）」については、釧路・根室連携地域（60.9%）が最も割合が高く、次いで道南連携地域（59.2%）となっている。「町内会」については、十勝連携地域（39.3%）が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域（29.4%）となっている。

【人口規模別】

「団体での活動に参加していない（または参加したことがない）」については、人口10万人以上の市（58.1%）が最も割合が高く、次いで札幌市（56.8%）となっている。「町内会」については、町村部（32.5%）が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市（29.1%）となっている。

【性別】

「団体での活動に参加していない（または参加したことがない）」については、男性57.1%、女性52.3%となっており、「町内会」については、男性28.8%、女性25.8%となっている。

【年代別】

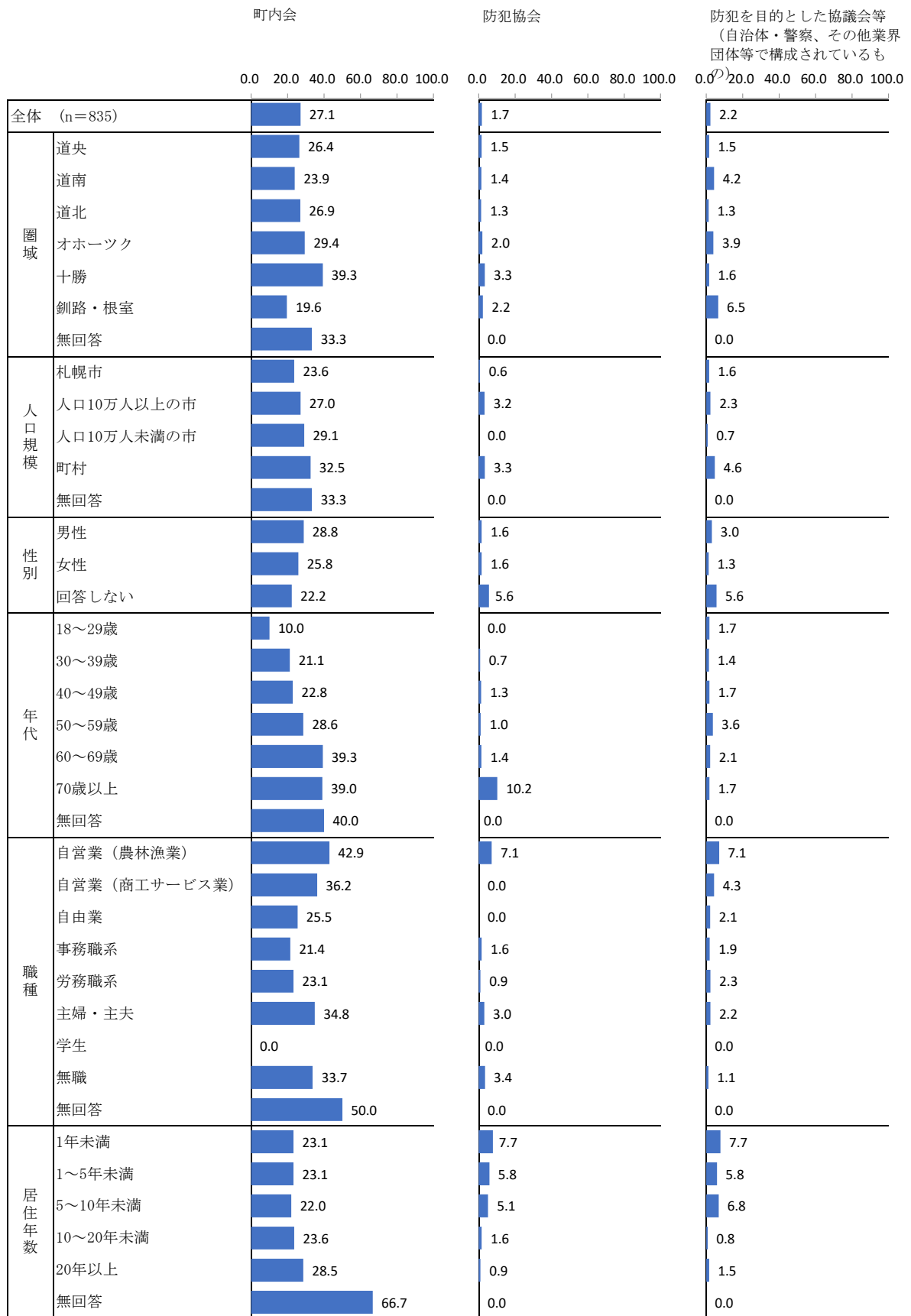
「団体での活動に参加していない（または参加したことがない）」については、18～29歳（68.3%）が最も割合が高く、次いで30～39歳（64.8%）となっている。「町内会」については、60～69歳（39.3%）が最も割合が高く、次いで70歳以上（39.0%）となっている。

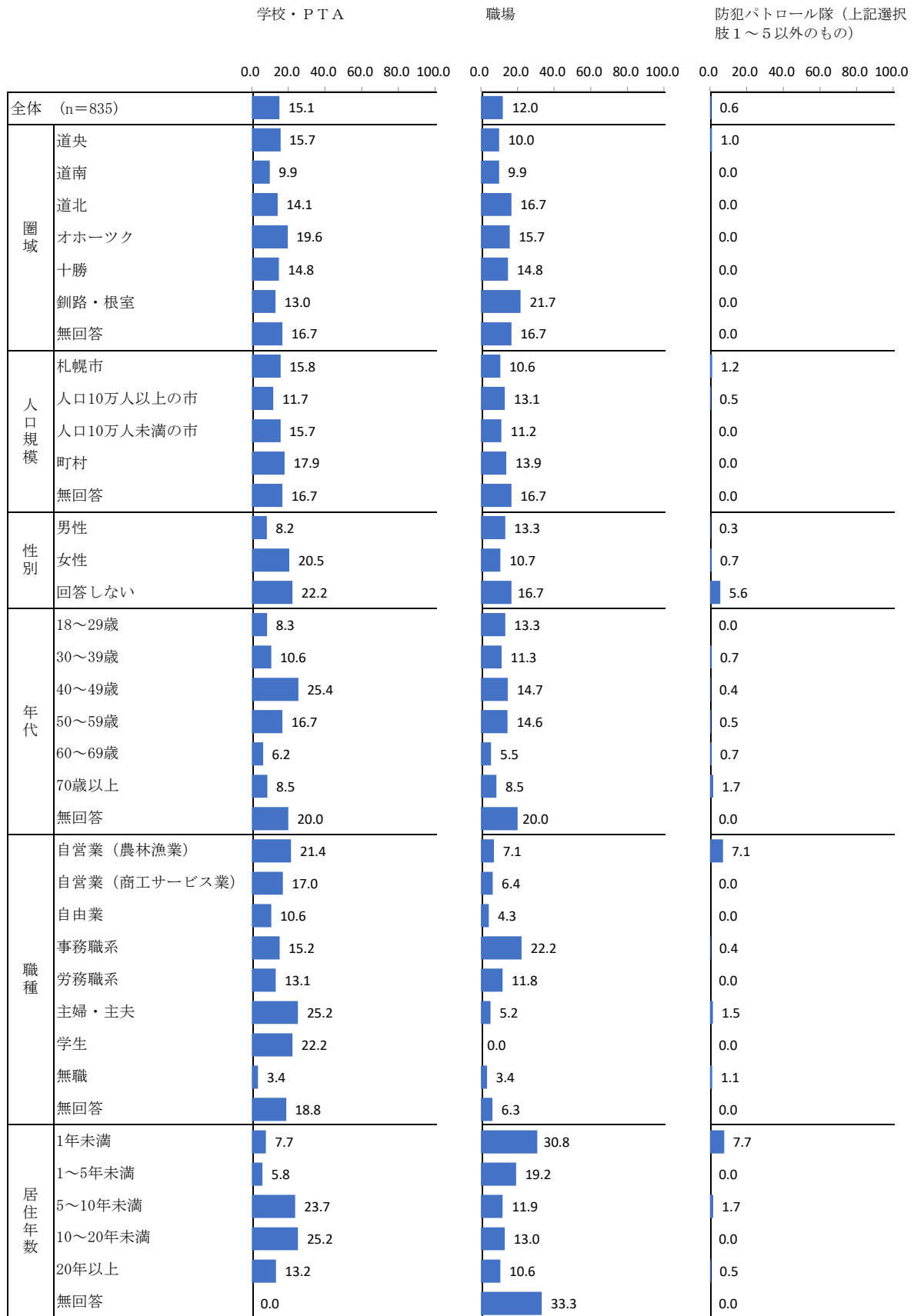
【職種別】

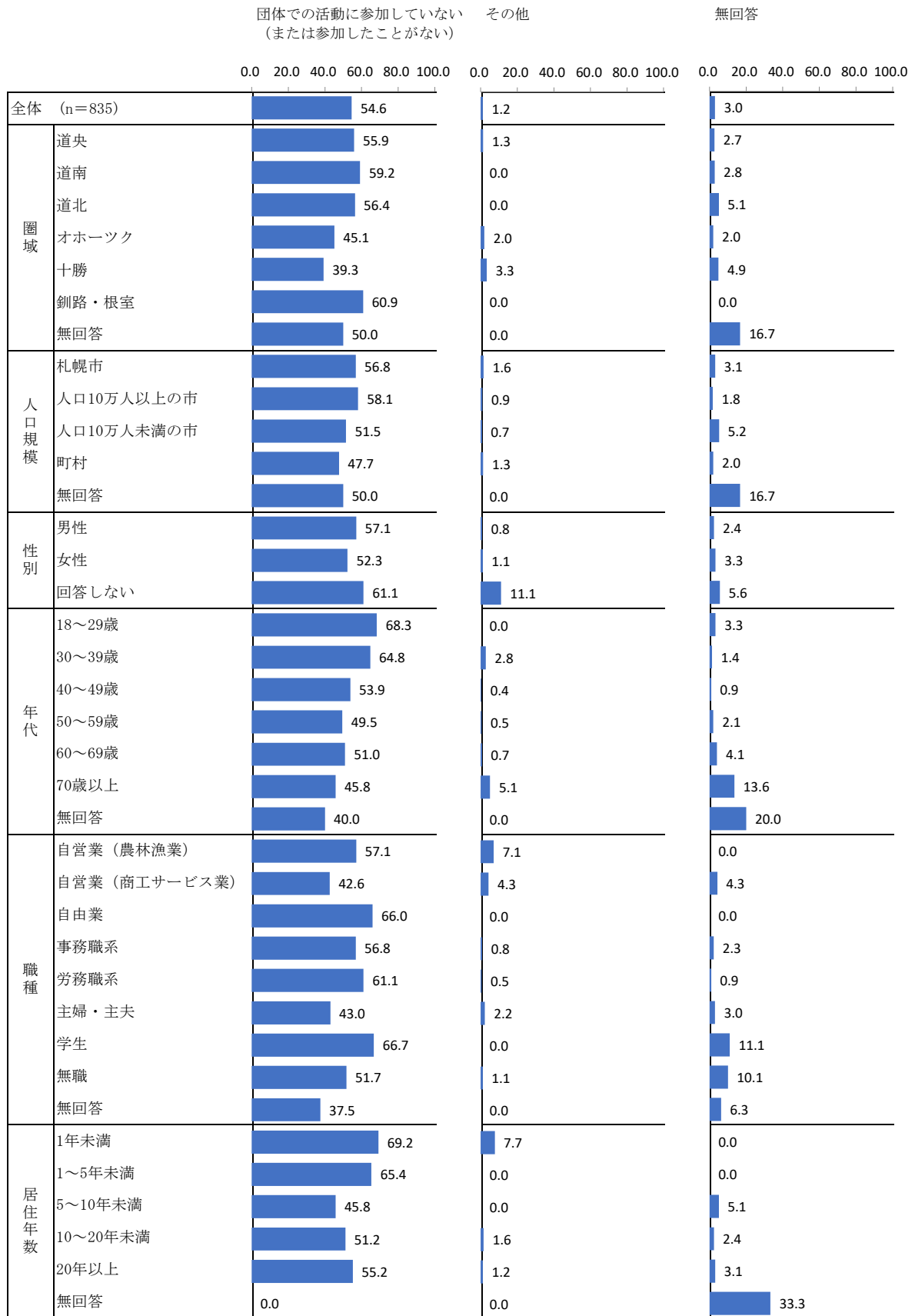
「団体での活動に参加していない（または参加したことがない）」については、自由業（66.0%）が最も割合が高く、次いで労務職系（61.1%）となっている。「町内会」については、自営業（商工サービス業）（36.2%）が最も割合が高く、次いで主婦・主夫（34.8%）となっている。

【居住年数別】

「団体での活動に参加していない（または参加したことがない）」については、1年未満（69.2%）が最も割合が高く、次いで1～5年未満（65.4%）となっている。「町内会」については、20年以上（28.5%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（23.6%）となっている。

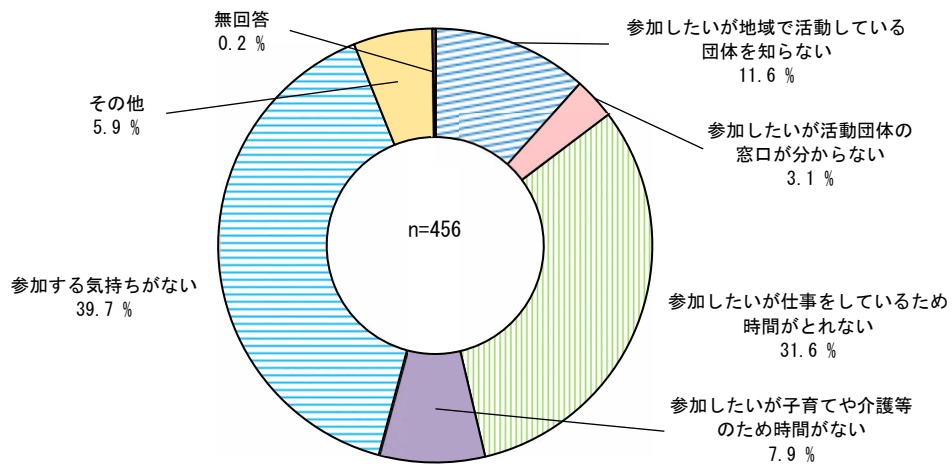






問6 ※問5で選択肢「7 団体での活動に参加していない(または参加したことがない)」を選んだ方のみお答えください。

あなたが、地域を犯罪被害から守るため、団体での活動に参加していない(または参加したことがない)理由について、次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「参加する気持ちがない」(39.7%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」(31.6%)、「参加したいが地域で活動している団体を知らない」(11.6%)の順となっている。

【圏域別】

「参加する気持ちがない」については、道北連携地域(47.7%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(42.5%)となっている。「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、オホーツク連携地域(56.5%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(46.4%)となっている。

【人口規模別】

「参加する気持ちがない」については、札幌市(47.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(36.4%)となっている。「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、人口10万人未満の市(42.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(34.1%)となっている。

【性別】

「参加する気持ちがない」については、男性45.2%、女性34.9%となっており、「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、男性34.8%、女性29.4%となっている。

【年代別】

「参加する気持ちがない」については、30～39歳(46.7%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(44.4%)となっている。「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、50～59歳(43.2%)が最も割合が高く、次いで30～39歳と40～49歳(30.4%)が同率となっている。

【職種別】

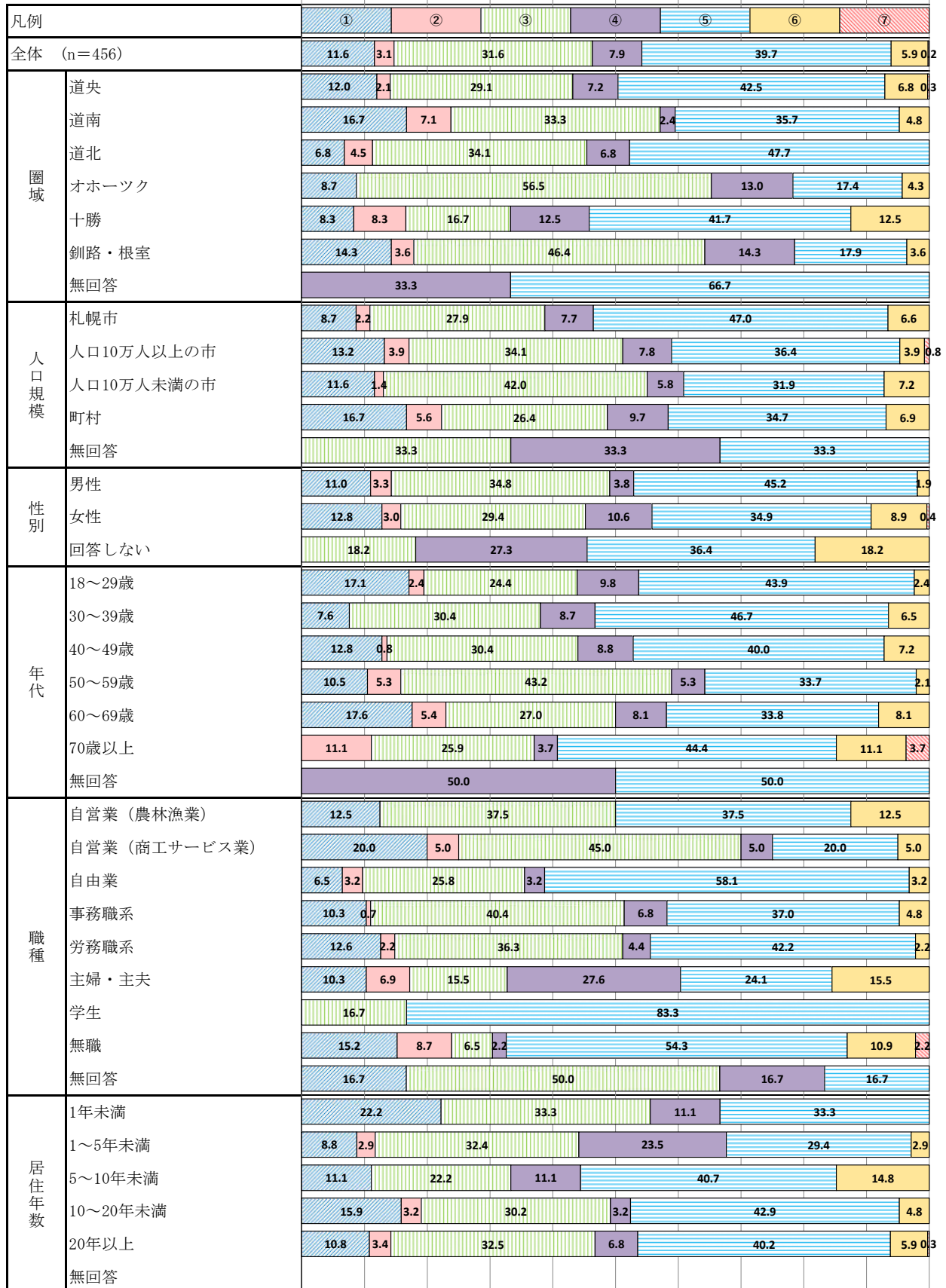
「参加する気持ちがない」については、自由業(58.1%)が最も割合が高く、次いで無職(54.3%)となっている。「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、自営業(商工サービス業)(45.0%)が最も割合が高く、次いで事務職系(40.4%)となっている。

【居住年数別】

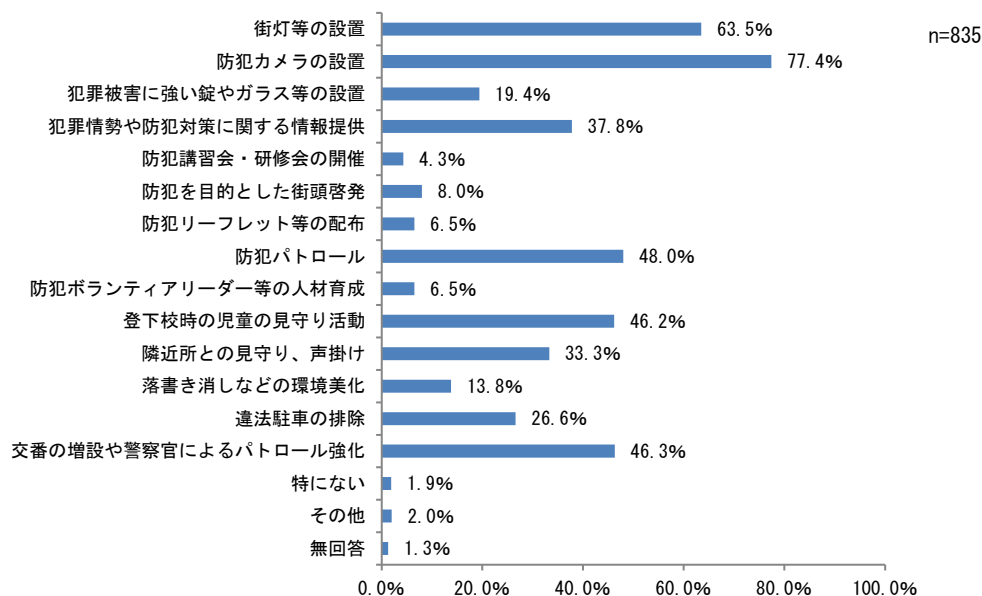
「参加する気持ちがない」については、10～20年未満(42.9%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(40.7%)となっている。「参加したいが仕事をしているため時間がとれない」については、1年未満(33.3%)で最も割合が高く、次いで20年以上(32.5%)となっている。

- ①参加したいが地域で活動している団体を知らない
 ②参加したいが活動団体の窓口が分からない
 ③参加したいが仕事をしているため時間がとれない
 ④参加したいが子育てや介護等のため時間がない
 ⑤参加する気持ちがない
 ⑥その他
 ⑦無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問7 あなたは、地域を犯罪被害から守るために、どのような活動や対策が必要だと思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「防犯カメラの設置」(77.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「街灯等の設置」(63.5%)、「防犯パトロール」(48.0%)の順となっている。

【圏域別】

「防犯カメラの設置」については、道央広域連携地域(79.3%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(76.9%)となっている。「街灯等の設置」については、道南連携地域(71.8%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(71.7%)となっている。

【人口規模別】

「防犯カメラの設置」については、人口10万人未満の市(80.6%)が最も割合が高く、次いで町村部(79.5%)となっている。「街灯等の設置」については、人口10万人未満の市(68.7%)が最も割合が高く、次いで町村部(65.6%)となっている。

【性別】

「防犯カメラの設置」については、男性76.6%、女性78.4%となっており、「街灯等の設置」については、男性58.2%、女性67.5%となっている。

【年代別】

「防犯カメラの設置」については、30～39歳(84.5%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(80.0%)となっている。「街灯等の設置」については、18～29歳(70.0%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(66.2%)となっている。

【職種別】

「防犯カメラの設置」については、自営業(商工サービス業)(83.0%)が最も割合が高く、次いで事務職系(79.4%)となっている。「街灯等の設置」については、労務職系(67.9%)が最も割合が高く、次いで事務職系(67.7%)となっている。

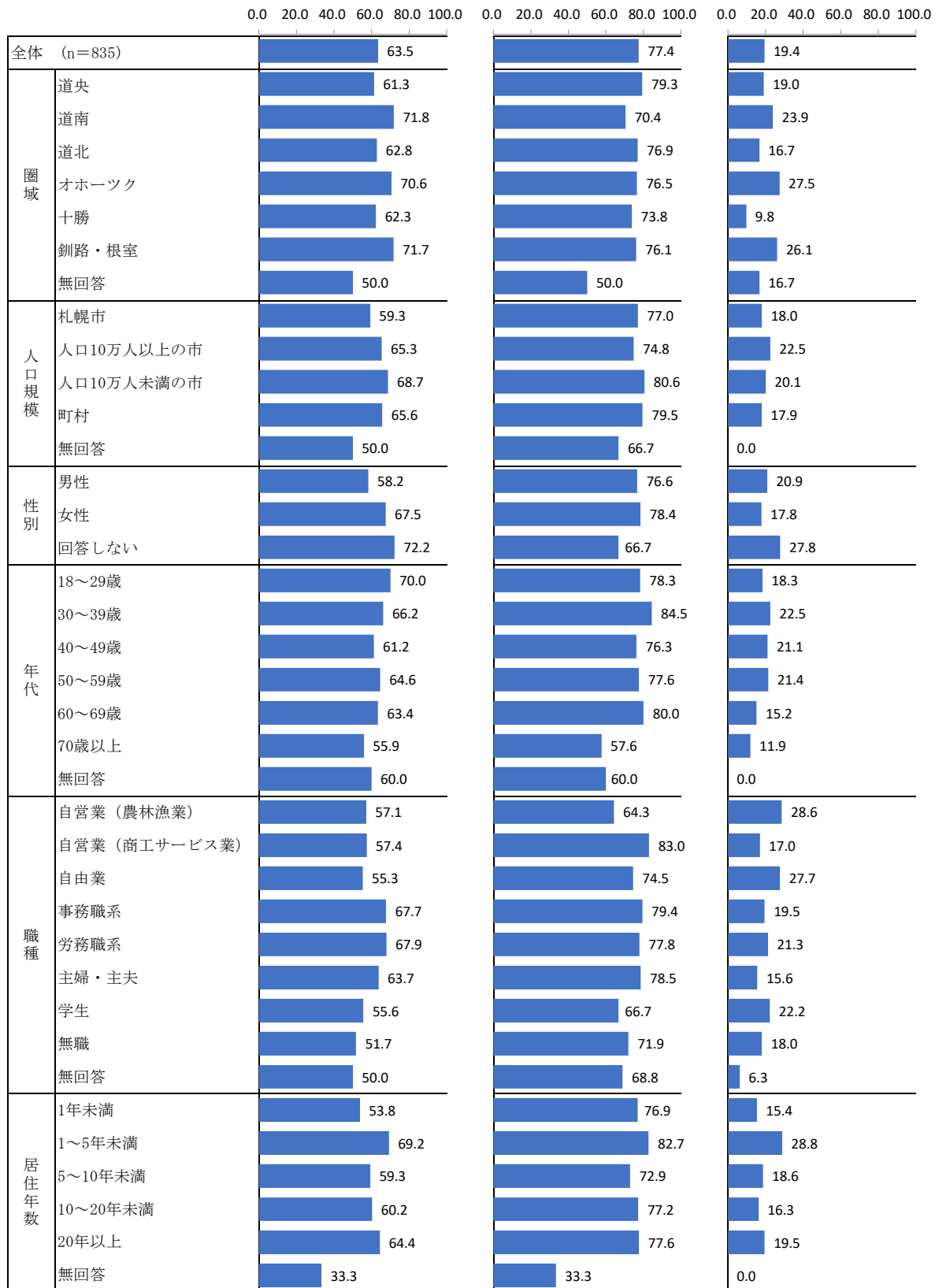
【居住年数別】

「防犯カメラの設置」については、1～5年未満(82.7%)が最も割合が高く、次いで20年以上(77.6%)となっている。「街灯等の設置」については、1～5年未満(69.2%)が最も割合が高く、次いで20年以上(64.4%)となっている。

街灯等の設置

防犯カメラの設置

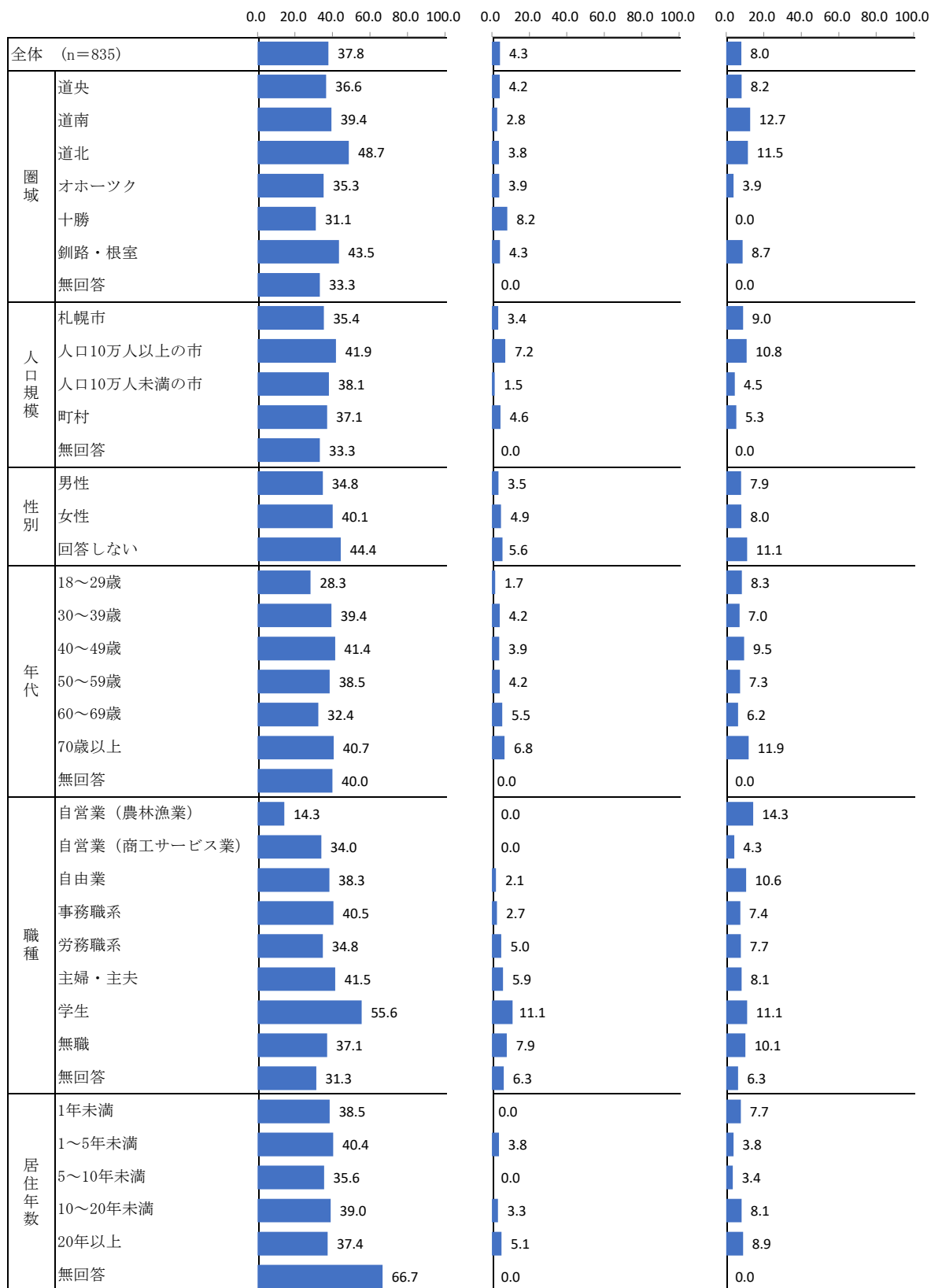
犯罪被害に強い錠やガラス等の設置



犯罪情勢や防犯対策に関する情報提供

防犯講習会・研修会の開催

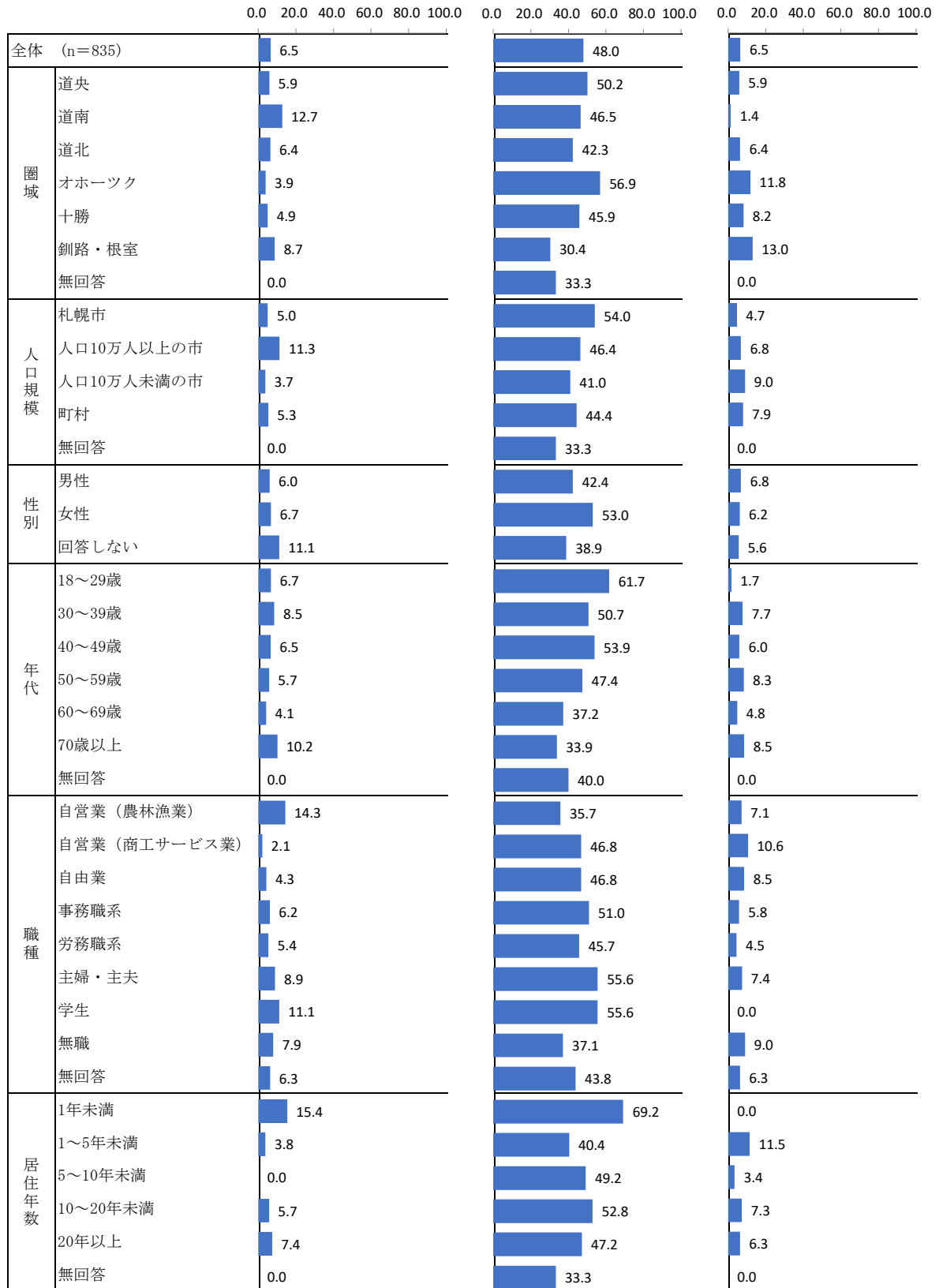
防犯を目的とした街頭啓発



防犯リーフレット等の配布

防犯パトロール

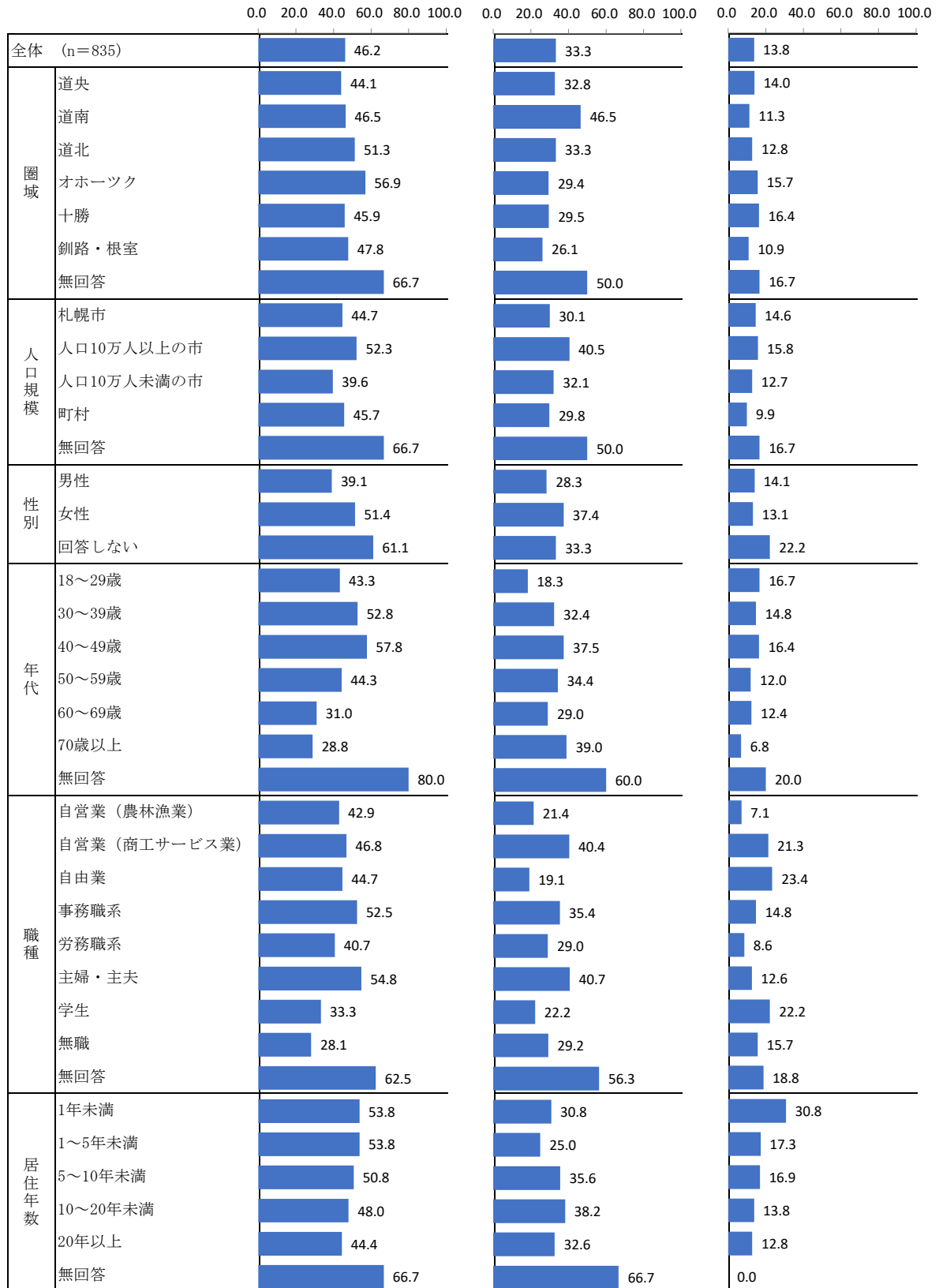
防犯ボランティアリーダー等の人材育成



登下校時の児童の見守り活動

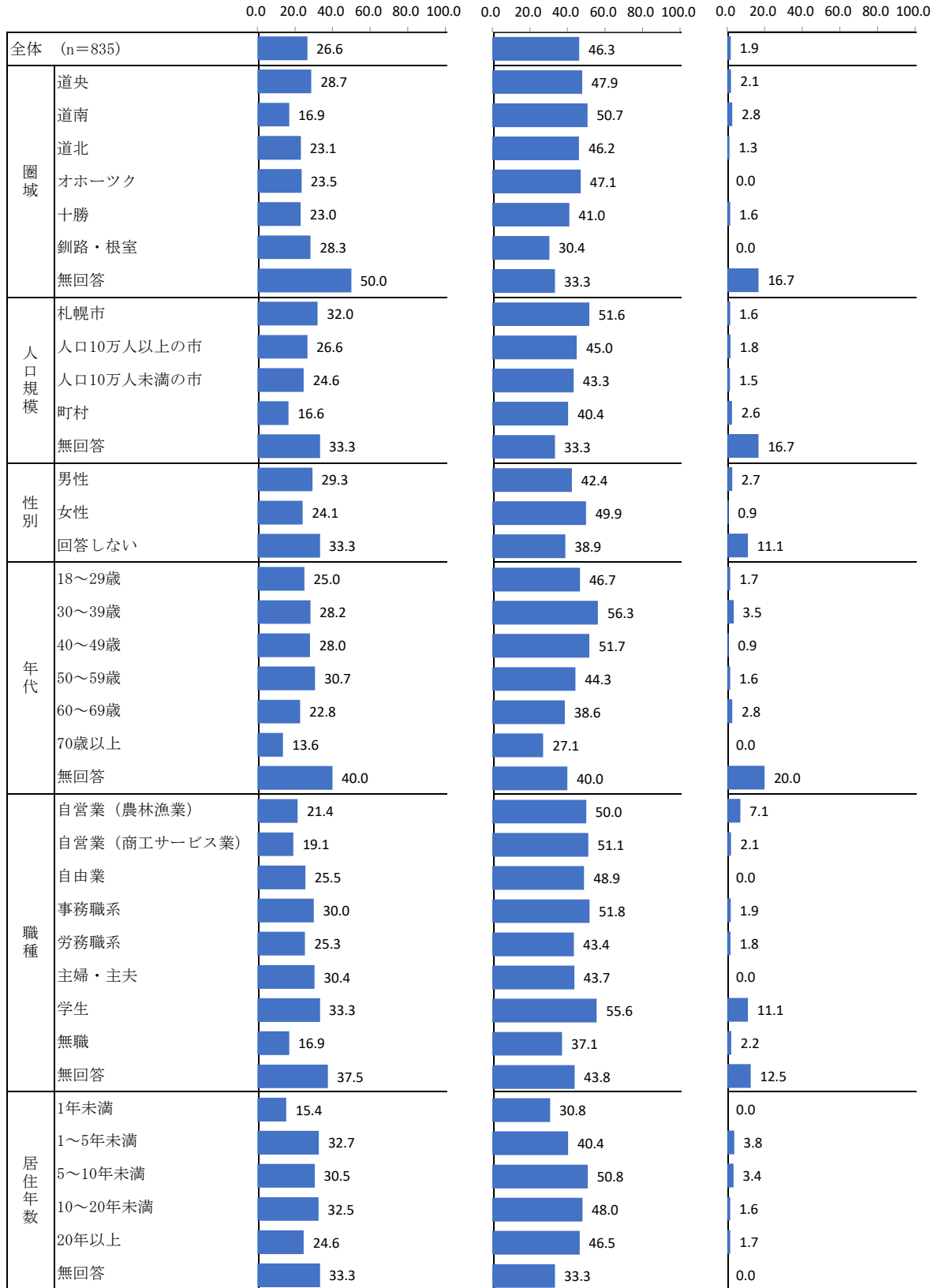
隣近所との見守り、声掛け

落書き消しなどの環境美化



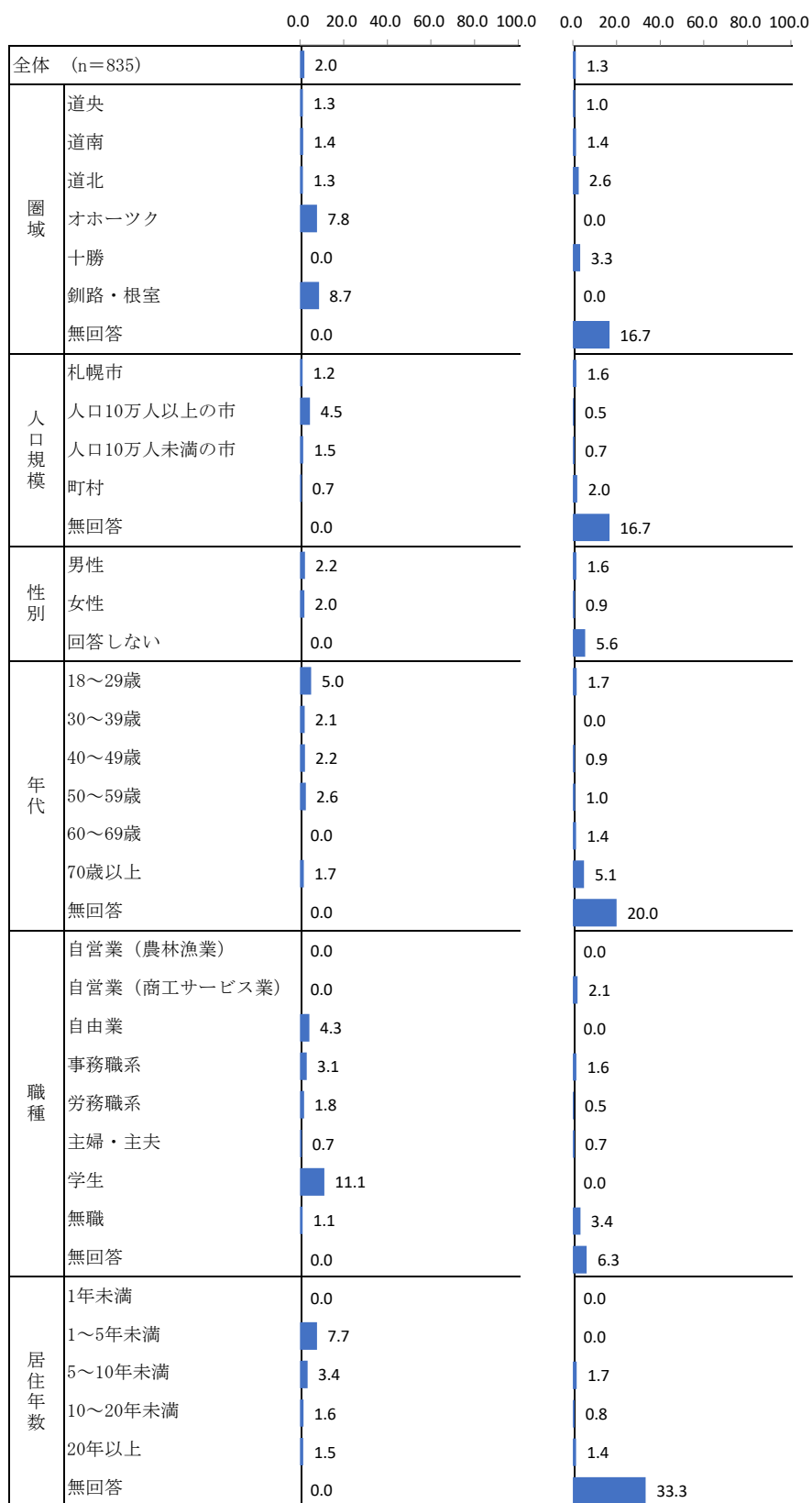
違法駐車排除

交番の増設や警察官によるパトロール強化 特にない



その他

無回答



「犯罪のない安全で安心な地域づくりについて」の調査を終えて

道内における令和2年(2020年)中の刑法犯認知件数は1万8,467件で、平成15年(2003年)以降18年連続で減少している。

こうした中、本調査における犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じることにしても、前回調査(令和元年度(2019年度)以下同じ。)に比べて「ほとんどない」(47.4%)、「全くない」(7.1%)と回答された方の割合が1割以上増加して全体の半数を超える結果となった。

地域における防犯活動については、「団体での活動に参加していない(または参加したことがない)」(54.6%)と回答された方が半数を超えており、そのうち約4割の方が「参加する気持ちはない」(39.7%)と回答されており、前回調査と同様の結果であった。

犯罪防止に必要な対策については、前回調査と同様、「防犯カメラの設置」(77.4%)と「街灯等の設置」(63.5%)の回答がそれぞれ6割を超えており、特に人口10万人未満の市や町村部の方の割合が高い結果となった。

刑法犯認知件数は減少傾向にあるものの、特殊詐欺のほか、子供や女性が被害者となる犯罪などが依然として発生しており、こうした調査結果を踏まえ、被害を未然に防止するため、今後も関係機関等と治安上の課題を共有しながら、道民運動である安全・安心どさんこ運動の普及や、インターネット等を通じた防犯情報等の発信など、犯罪のない安全で安心な地域社会の実現に向けて、道民と一体となって更なる取組を推進していく。

(環境生活部くらし安全局道民生活課)

(北海道警察本部生活安全部生活安全企画課)